

第35回 うつのみやこども賞だより

平成30年度 10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ジャンプ!ジャンプ!ジャンプ!!』

イノウエミホコ／著 (ポプラ社)

『ウンダーカンマー』

榎崎茜／著 (理論社)

～読んだ本の感想よ～



- あすかたちがバスケに対してもっているそれぞれの思い、家族との関係がすぐ分かるような文しょうだし、最後、1つのチームになるまで、仲良くなったり、または、はなれたり1つのパターンじゃないのが良かったです。
- 前向きにがんばっているあすかが、すごいなと思いました。
- バスケのことがよく分かる、深くおもしろい本だった。
- 「やっぱり友達っていいな」と感じさせてくれる本だと思いました。
- 4人の難しい友達関係には、共感しました。
- 最後に4人が仲良くなれてよかったなと思いました。



- 多嶋育実、橋本恋歌、飯田円佳…と1人1人同じシーンでの思っていたことが書かれていたのがおもしろかった。
- ぼくはこの4つの中で、これに魅力を感じた。
- 最後までいっきに読めて、読み終えた後にはそうかい感があった。
- 職場体験にいった中学生の素直な感想を読むのが楽しかった。
- 博物館の仕事が知れて、おもしろかった。
- いろいろな目線からの博物館での職場体験バックヤードが書いてあり、おもしろい。

『天からの神火』

久保田香里／著 (文研出版)

- 袖麻呂と早矢太は地位のちがう2人だけど、おたがいにできる事をしようとしていたところに感動しました。
- 奈良時代のお話(時代小説?歴史小説?)というものがめずらしい。
- 身分がちがう世界でも仲良くなれるということを学んだ。
- 郷の者をすくうために倉に火を放ったのは、とても勇気があるなと思いました。
- 倉をもやしてしまったことを神鳴りのせいにしたのがずるいと思ったけど、最後がHAPPYENDでおわってよかった。
- 最後に、袖麻呂が考えた神鳴りが落ちたことになってしまうという作戦はすごいと思った。

『冒険は月曜の朝』

荒木せいお／著 (新日本出版社)

- 賛晴と意見がわれてしまい、二人が別々になってしまったときは、ドキドキしました。
- 風花と賛晴がくりひろげてゆく冒険がおもしろかった。
- 兄だというせっていなどがおもしろかった。「風花の旅」という言葉もいいと思った。
- 先が気になって、ドキドキするお話だった。風花と賛晴が兄弟のふりをするとおもしろかった。
- 風花と賛晴が河口湖まで行くために、わざわざ兄弟のふりをして行くという設定が面白かった。
- 兄弟じゃないとバレないように必死にごまかしている二人のやりとりに思わず笑ってしまいました。

平成31年3月3日